GLOBAL
CROSSVALUE
PLATFORM

株主レポート
まるべに

2019 WINTER No.127

CONTENTS

01 社長メッセージ
02 財務ハイライト
03 グループニュース
04 事業説明会
世界の街から
コラム 正新和
05 IRインフォメーション

Marubeni

01 MESSAGE FROM CEO 社長メッセージ

挑戦し続ける組織に

株主の皆様には、平素より格別のご支援およびご厚情を賜り、心より御礼申し上げます。11月5日に2019年度第2四半期決算を公表しました。決算については次頁以降でご説明します。

今年度よりスタートした中期経営戦略GC2021の遂行にあたり、私が日々社員に向けて発信しているキーワードの一つに「敗者復活」というものがあります。世の中が急激に変化する不確実性の時代である今、社員には思い切ったビジネスの種をどんどん持ってきて挑戦してほしい。しかしながら挑戦には失敗もつきものです。誰しも常に勝者でありたいものですが、必ずしも上手くいくとは限りません。「敗者復活」という言葉を中心に置けば社員がみんな思い切って働けるのではないかと考えました。

私自身、1990年代半ばに中東での発電所建設案件で失敗を経験しました。パートナー企業の倒産や巨額の為替差損などトラブルが続き苦しみましたが、そこから多くの学びを得て、次に手掛けた別の中東案件では成功を収めることができました。

起きてしまった失敗を会社全体でカバーして大惨事にはしない、そして、失敗した社員が「次こそは」と前向きになれる組織を作るのが私の役目です。当時の私のようにこれから失敗を経験する社員にも、敗者復活をして次の案件に挑戦してほしいと思っています。私たちは、全社一丸となって丸紅グループの持続的な成長・発展のために邁進していきます。株主の皆様におかれましても、引き続き変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

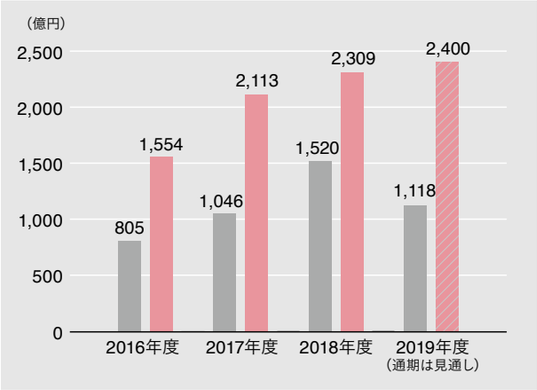
代表取締役社長 柿木真澄

02

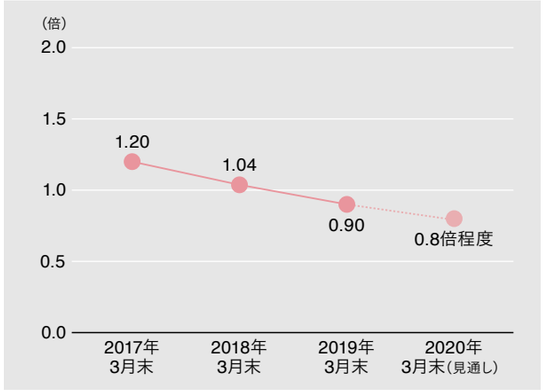
FINANCIAL HIGHLIGHT 財務ハイライト

2019年度第2四半期累計期間の純利益は、1,118億円（前年同期比 -402億円の減益）となりました。2019年度通期の純利益見通しは、期初に掲げた2,400億円を据え置いています。これに伴い、年間配当金についても1株当たり35円の期初予想を据え置き、引き続きこれを下限とします。中間配当金は、1株当たり17.5円で決議済みであり、12月2日より支払いを開始します。

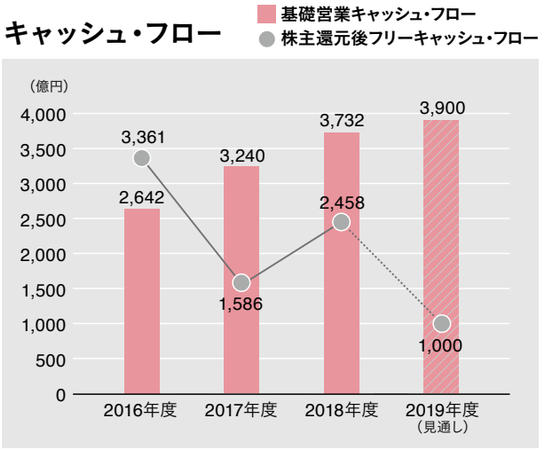
純利益



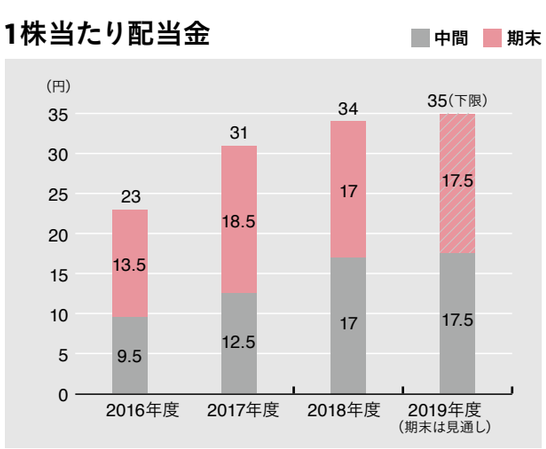
ネット DE レシオ



キャッシュ・フロー



1株当たり配当金



※純利益：親会社の所有者に帰属する四半期利益／当期利益　※2019年度見通し／2020年3月末見通し：2019年11月5日に公表した通期見通し
※基礎営業キャッシュ・フロー：営業キャッシュ・フローから営業資金の増減等を控除。なお、2018年度第3四半期決算より、基礎営業キャッシュ・フローの算出方法を変更しています。本変更に伴い、過年度の計数についても更新しています。

更に詳しい情報は当社ウェブサイトをご覧ください。
www.marubeni.com/jp/ir/finance/

第2四半期累計 セグメント別純利益

	2018年度 第2四半期累計	2019年度 第2四半期累計	増減	主な増減内容
ライフスタイル	30	18	-12	衣料品等の販売減少
情報・不動産	56	71	+14	情報関連事業における採算改善
フォレストプロダクツ	81	40	-41	市況悪化に伴うパルプ事業の減益／パルプ事業における持分法適用会社を連結除外したことによる減益
食料	76	116	+40	穀物トレードの採算改善
アグリ事業	148	100	-49	Gavilonの欧州（イタリア・スペイン）向け取引における不適切な処理に起因する過年度決算修正に伴う損失39億円の計上
化学品	62	14	-48	石油化学製品の採算悪化
電力	349	141	-209	前年同期に計上した国内発電事業売却益の反動
エネルギー	106	△ 6	-111	石油・ガス開発事業での減損損失
金属	237	386	+149	豪州鉄鉱石事業の増益
プラント	65	20	-45	海外プラント案件の減益
航空・船舶	82	78	-4	
金融・リース事業	97	105	+8	
建機・自動車・産機	118	117	-1	
次世代事業開発	△ 8	△ 15	-7	
その他	20	△ 66	-86	法人所得税（年間見積実効税率への調整額）の悪化
全社合計	1,520	1,118	-402	

※2019年4月より「食料」、「生活産業」、「素材」、「エネルギー・金属」、「電力・プラント」及び「輸送機」としていたオペレーティング・セグメントを、「ライフスタイル」、「情報・不動産」、「フォレストプロダクツ」、「食料」、「アグリ事業」、「化学品」、「電力」、「エネルギー」、「金属」、「プラント」、「航空・船舶」、「金融・リース事業」、「建機・自動車・産機」及び「次世代事業開発」に再編しています。これらの変更に伴い、前年同期のオペレーティング・セグメント情報を組み替えて表示しています。

03

Group News グループニュース

グローバルに広がる、丸紅グループの最新トピックや
プロジェクトを幅広くご紹介します。

トルコ

建機・自動車・産機

2019.8.8リリース

建設機械販売代理店を
連結子会社化

ケニア・タンザニア等

電力

2019.6.3リリース

未電化地域におけるソーラー
ホームシステム販売事業に参入

中国

金融・リース事業

2019.6.25リリース

G7社と冷凍・冷蔵トレー
ラーのリース・レンタル事業
に関する合弁会社を設立

ベトナム

食料

2019.6.19リリース

インスタントコーヒー
製造販売事業会社を設立

P.11

豪州

プラント

2019.5.27リリース

シドニーメトロノース
ウェスト線の運行開始

ロシア

次世代事業開発

2019.6.25リリース

日露予防医療診断センター（仮称）
の設立に向けて合意

日本

電力

2019.4.16リリース

長野県伊那市における
地域密着型ビジネスの
共同開発に合意

航空・船舶

2019.9.24リリース

JALビジネスアビエーション㈱に
おいてビジネスジェット
サービスを開始

米国

化学品

2019.4.10リリース

AIを応用した医用画像診断
システムの共同開発契約を締結

P.7

ライフスタイル

2019.8.29リリース

繊維リサイクル事業の
TYTON BioSciences社に出資

P.13

グローバル

次世代事業開発

2019.6.21リリース

コーポレートベンチャーキャピタルを設立

P.8

AIを応用した医用画像診断システムの共同開発契約を締結

2019.4.10リリース

診断精度向上による早期検知や誤診削減を目指して

丸紅は、丸紅が出資する米国Enlitic社とコニカミノルタ㈱と、AI（人工知能）を応用した胸部単純X線用医用画像診断システムの共同開発契約を締結しました。

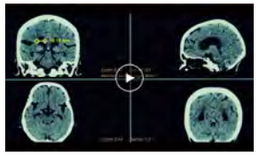
この共同開発でEnlitic社の技術力とコニカミノルタ㈱の持つ商品開発力を融合し、プライマリケア※や検診をサポートするAIの開発を加速させます。専門医のスキルを学習したAIをプライマリケアに活用することで、患者、診療放射線技師、医師の負担を減らすことが可能であると考え、本システムによってプライマリケアの現場を支援します。胸部単純X線画像は医療現場で一般的に利用されていますが、医師への負担も大きく、画像を診断する放射線科医が不足しているという課題があります。AIを活用することで、限られた時間の中で大量の診断を要求される検診現場において、画像診断の効率化による医師不足の解消に加え、診断精度向上による早期検知や誤診削減をサポートしていくことを目指しています。

PICK UP

デジタルヘルスケア社会の到来に向けて

丸紅は、多くの医療用AIの技術パートナーと協業し、将来のAI医療を用いた予防・診断システムの構築を通じて、日本のデジタルヘルスケア分野の発展に貢献していきます。

当社ウェブサイトにて、Enlitic社の取り組みを動画でもご紹介しております。ぜひご覧ください。
www.marubeni.com/jp/insight/scope/enlitic/



※身近にあって、何でも相談にのってくれる総合的な医療（出典：一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会）

PICK UP

Marubeni Ventures

コーポレートベンチャーキャピタルを設立

2019.6.21リリース

スタートアップの持つ革新的な技術やビジネスモデルを自社に取り込む

国内外のスタートアップに対して投資を行うコーポレートベンチャーキャピタル（以下、「CVC」）「丸紅ベンチャーズ株式会社」を設立しました。近年、個人あるいは少人数で創業するスタートアップが革新的な技術やサービスを多く創出しており、今後より広範な業界で影響を及ぼすことが予想されています。

次世代の収益基盤となる新たな事業の創出を目指す

丸紅は、中期経営戦略GC2021で掲げた2030年に向けた爆発的成長の実現を目指し、既存事業領域の枠組みを超えるイノベーション促進と、次世代の収益基盤となる新たな事業創出に向けた取り組みを加速させるため、今回設立したCVCを通じて革新的なビジネスを生み出すスタートアップへの投資を行います。国内外のスタートアップとの連携・共創をこれまで以上に能動的かつ、スピード感をもって推進し、スタートアップが生み出す最先端技術やビジネスモデルと、丸紅の知見や顧客基盤を融合することで、イノベーションの創出を活性化し、社会が直面する課題の解決に貢献します。丸紅は、CVC設立に加え、今後もスタートアップとの連携による新しい事業の創出をグローバルに進めていきます。

【概要】
会社名　：丸紅ベンチャーズ株式会社
設立　　：2019年6月
出資総額：50億円（予定）
投資地域：日本、米国、アジア、イスラエル、エストニア等

04 IR Meeting on Business Operation 事業説明会

成長投資 ホライゾン2および3の投資事例

2019年10月2日、都内会場にて機関投資家・アナリスト向けに事業説明会を実施し、現在取り組んでいる新規投資案件について、各本部長から戦略等を説明しました。中期経営戦略GC2021で掲げている通り、足元の収益を支える「持続的成長」と2030年に向けた「爆発的成長」、これら時間軸の異なる成長戦略を同時に推進しています。

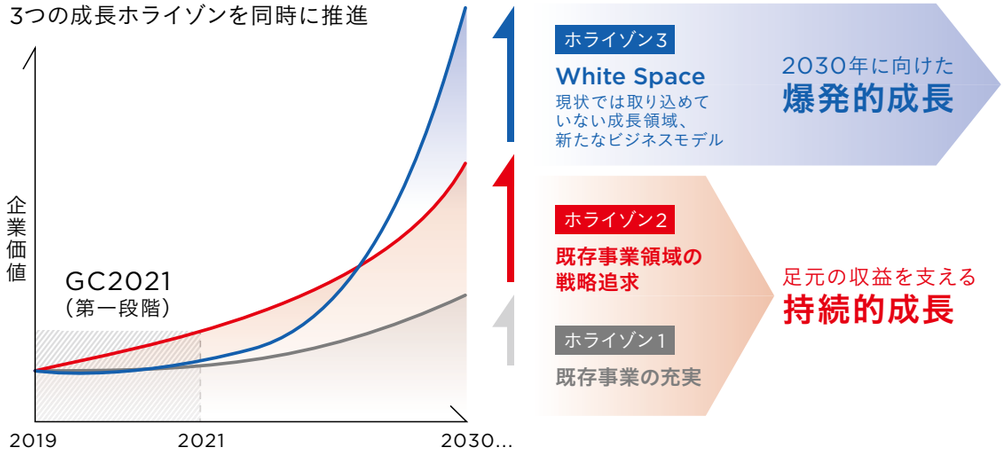
代表取締役専務執行役員 CFO
投融資委員会委員長 矢部 延弘

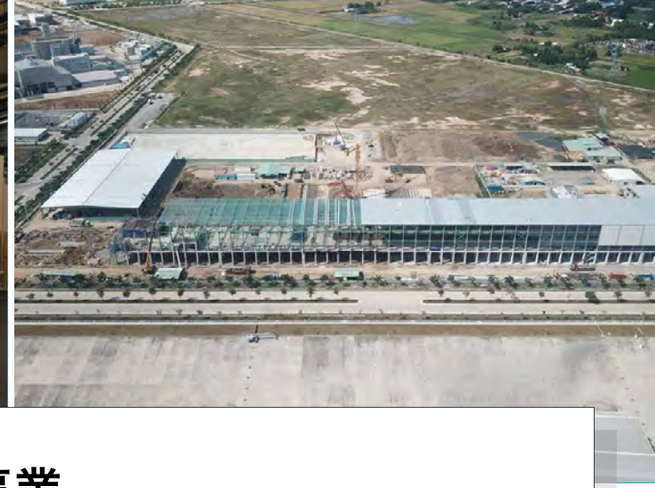
既存事業領域の強化・拡大に向けたホライゾン2投資事例

- ベトナム 段ボール原紙事業(Kraft of Asia Paperboard & Packaging Co., Ltd.)⇒P.10
- ベトナム インスタント・コーヒー事業(Iguacu Vietnam Co., Ltd.)⇒P.11
- 米国 肉牛の処理加工・販売事業(拡張)(Creekstone Farms Premium Beef LLC)⇒P.12

新規事業領域におけるホライゾン3投資事例

- 米国 繊維リサイクル事業(TYTON BioSciences LLC)⇒P.13
- 米国 構造ヘルスモニタリング事業(Acellent Technologies, Inc.)⇒P.14





ベトナム 段ボール原紙事業

Kraft of Asia Paperboard & Packaging Co., Ltd.
説明者:執行役員 フォレストプロダクツ本部長 寺垣 毅

日本におけるメーカーの経営・操業経験と海外で蓄積した知見を活かし、成長著しいベトナム市場へ事業展開。丸紅100%出資にて、工場建設から段ボール原紙製造、販売まで主体的な事業戦略を実行

01 既存事業の技術・強み

- 日本における段ボール原紙製造会社運営ノウハウ(興亜工業(当社出資79.95%)、福山製紙(同55%))
- 海外における段ボール原紙製造会社への経営参画による知見
- 国内外における販売網
- 省エネルギー・省資源に配慮した生産体制
- 顧客ニーズの集積とそれを反映する商品開発能力

02 事業環境

- ベトナムは2020年代前半に東南アジア最大の段ボール原紙消費国となる見込み

03 2021年度目標

- 売上高:200億円
- 純利益:20億円

ホライゾン2
投資事例 2

ベトナム インスタント・コーヒー事業

Iguacu Vietnam Co., Ltd.
説明者：執行役員 食料本部長 熊田 秀伸

世界首位のコーヒー生豆生産国であるブラジルと、第２位であるベトナムの２拠点製造体制を確立し、伸長するアセアン・中国のインスタント・コーヒー（以下、IC）需要を取り込む

01 既存事業の技術・強み

- **丸紅の経験・技術**
  - コーヒー生豆取引において、日本市場の約３割のシェアを保有
- **イグアスブラジル社の経験・技術および販路**
  - 1972年の当社参画から約50年の事業運営実績。年間２万４千トンのICを生産
  - 世界トップクラスの品質安定性と製造効率、世界中への幅広い販路

02 事業環境

- 世界の全コーヒー市場は、世界平均年率2%超のペースで伸長
- その中でもアセアン・中国の全コーヒー需要は、年平均６%を超えるペースで伸長
- 世界のIC市場は約80万トン（BtoB市場は約32万トン）世界平均年率2%で拡大

03 目標売上規模（第1フェーズ）

- 2022年（製造開始年）：売上高35百万米ドル（数量６千トン）
- 2024年（フル稼働開始年）：売上高100百万米ドル（数量1万６千トン）

ホライゾン2
投資事例 3

米国 肉牛の処理加工・販売事業（拡張）

Creekstone Farms Premium Beef LLC
説明者：執行役員 食料本部長 熊田 秀伸

世界最大の小売業者 Walmart Inc.と開始する委託加工取引を梃子に生産能力を大幅拡大、コスト競争力を強化
冷蔵倉庫の新設により、出荷オペレーションを改善

01 既存事業の技術・強み

- 高付加価値牛肉の肥育生産・処理加工に注力する戦略のもと、2017年に同社へ出資参画
- 高品質のアンガス種に特化し、Creekstoneブランドとして高級業態に広く認知

02 事業環境

- 新興国における所得水準上昇などにより、堅調に伸びる牛肉需要
- 牧草肥育牛や短期穀物肥育牛はコモディティ化
- アンガス種・和牛などのブランド種、中長期肥育の高付加価値穀物肥育牛はプレミアム化

03 工場拡張計画

工場拡張完了予定：2020年２月

処理能力	週間　6,000頭体制 → 11,000頭体制 年間　約30万頭体制 → 約50万頭体制

ホライゾン3
投資事例1

米国 繊維リサイクル事業

TYTON BioSciences LLC
説明者：執行役員 ライフスタイル本部長 大平 裕一

丸紅主導でグローバルに繊維の循環型サプライチェーンを構築、展開
廃棄物削減という社会課題の解決に貢献すると同時に、収益拡大を実現

01 社会課題

世界経済の成長に伴う、衣料品等繊維製品の大量生産・大量消費に起因する大量廃棄

02 新たなビジネスモデル

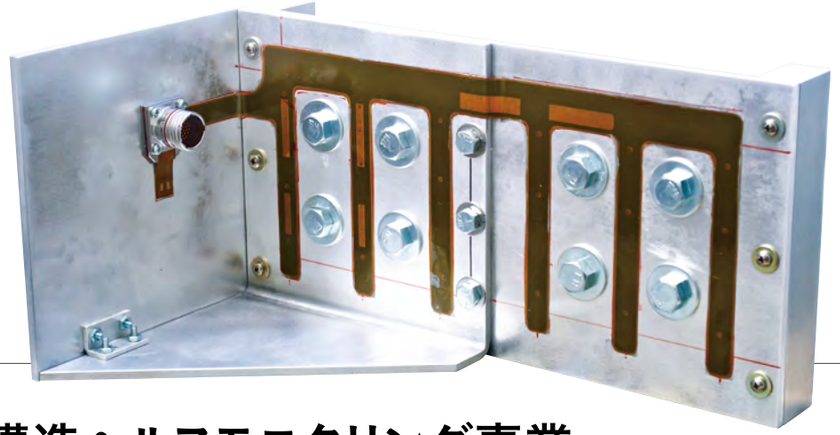
TYTON社のイノベーション

- 綿・ポリエステル製品をポリエステル原料とセルロース原料に再生
- 高い再生効率
- 化学薬品の使用を抑えた加水分解手法を用いることで環境負荷を低減
- 廃棄物（古着・端材等）を利用した価格競争力のある製造手法

丸紅の機能

- 大手顧客企業やサプライチェーンの各段階における有力提携企業との強固な取引関係
- 高品質の商品を競争力ある価格で適時・適量・安定供給可能な生産体制

ホライゾン3
投資事例2



米国 構造ヘルスモニタリング事業

Acellent Technologies, Inc.
説明者：執行役員 建機・自動車・産機本部長 板井 二郎

構造物（航空機、鉱山機械、橋梁等）の状態を検知し、老朽化による倒壊や破損を予知保全する技術を、丸紅が様々な領域に展開することで新たなビジネスモデル創出を目指す

01 社会課題

社会インフラの老朽化による倒壊や破損の頻発、保全コストの増大

02 新たなビジネスモデル

Acellent社のイノベーション

- スタンフォード大学発のベンチャー企業
- SMART Layerと呼ばれる貼付式センサー、高精度な解析技術

丸紅の機能

- 幅広い産業に拡がるネットワーク、顧客基盤、マーケティングノウハウ

当社ウェブサイトにも、事業説明会当日の配布資料および説明動画を掲載しておりますのでぜひご覧ください
https://www.marubeni.com/jp/ir/reports/business/

世界の街から

ポルトガル

GALP GAS NATURAL
DISTRIBUICAO, S.A.　府内 友洋

ムーア城跡

「この世のエデン」と称賛された街、シントラ

太陽の国、ポルトガルへ遊びに来てみませんか？国土は日本の約４分の1とコンパクトな国ですが、大航海時代には栄華を極め、歴史的にも文化的にも見どころがたくさんあります。

今回は、その中でも王侯貴族の別荘地として栄え、イギリスの詩人バイロンが「この世のエデン」と称賛した街、シントラをご紹介します。まずは

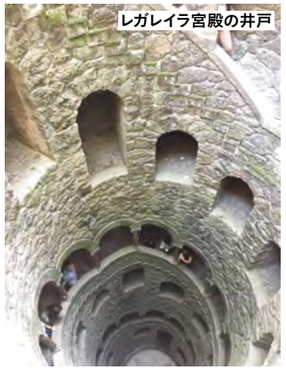
ペーナ宮殿

19世紀に建てられたペーナ宮殿。城壁が赤・青・黄で鮮やかに彩られ、まるでおとぎ話に出てくるお城のようです。お城の中には王族の貴重な調度品が展示されています。

次はムーア城跡。ムーア城は、８世紀頃に北アフリカからポルトガルを含むイベリア半島一帯を支配していたイスラム教徒ムーア人により、防衛拠点として建てられました。標高450メートルの山頂にあり、登るのが大変ですが、頂上からの眺望は絶景です。

15世紀から19世紀までポルトガルの王家が住み続けたシントラ宮殿も外せません。気高さの象徴である白鳥が27羽描かれた部屋など、様々なテーマの部屋があります。

最後は、冒険心をくすぐる不思議な空間、レガレイラ宮殿を目指します。神秘的な宮殿を始め、暗闇の中を進む洞窟、滝のある飛び石を歩ける池、螺旋階段になっている井戸など、歩き回っていたら不思議な空間をたくさん見つけることができます。ワクワクする冒険を楽しんでください。


レガレイラ宮殿の井戸

コラム
—
正新和

Integrated report 2019
2019年9月に『統合報告書2019』を発行しました

統合報告書は、株主・投資家や取引先をはじめとする全てのステークホルダーの方々に向けて、当社の中長期的な価値創造プロセスについて理解を深めていただくことを目的として制作しています。丸紅グループは、時代が求める社会課題を先取りし、社会・顧客にソリューションを提供するとともに、これまでの常識を乗り越えて新たな成長領域、ビジネスモデルに挑戦していきます。本報告書では、2019年５月に公表した中期経営戦略の解説、ガバナンスやサステナビリティへの取り組みに加え、各営業本部の成長戦略など非財務情報を拡充し、当社の企業価値向上への取り組みをより体系的に理解していただけるよう努めました。ぜひご一読いただき、改めて丸紅グループ全体の取り組みについて理解を深めていただく機会となれば幸いです。

統合報告書2019
https://www.marubeni.com/jp/ir/reports/integrated_report/

コーポレート・ガバナンスへの取り組み

グローバルに事業を展開する丸紅は、各国の法制度、資本市場の環境等の違いや、企業の社会の公器としての役割を認識しつつ、中長期的、総合的な視点から、丸紅ならではのコーポレート・ガバナンスの在り方を追求しています。ガバナンスに対しての基本的な考え方、具体的なガバナンス体制についてご紹介しています。

各営業本部の強み・機会・リスクを踏まえた成長戦略

丸紅グループの在り姿「Global crossvalue platform」を土台に、各営業本部においても在り姿と戦略について議論を重ねてきました。それぞれの成長戦略や具体的な取り組み案件についてご紹介しています。

05 IR Information IRインフォメーション

株式情報

●株式の状況 (2019年9月30日現在)

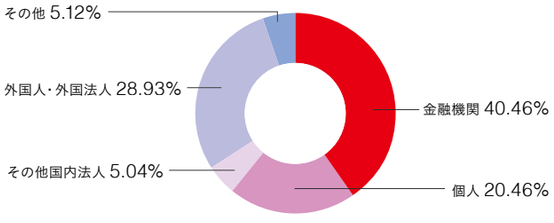
発行済株式の総数 1,737,940,900株
株主数 184,579名

●大株主 (2019年9月30日現在)

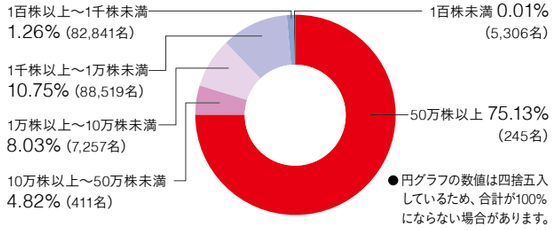
株主名	当社への出資状況 持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	125,167	7.21
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	102,873	5.93
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	54,321	3.13
明治安田生命保険相互会社	41,818	2.41
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	38,907	2.24
株式会社みずほ銀行	30,000	1.73
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	30,000	1.73
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口7)	26,548	1.53
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口1)	25,836	1.49
ジェーピー モルガン チェース バンク 385151	25,110	1.45

●持株数は千株未満を切り捨てています。
●持株比率は発行済株式総数から自己株式数を控除して算定し、小数点3位以下を四捨五入しています。

●所有者別分布状況 (2019年9月30日現在)



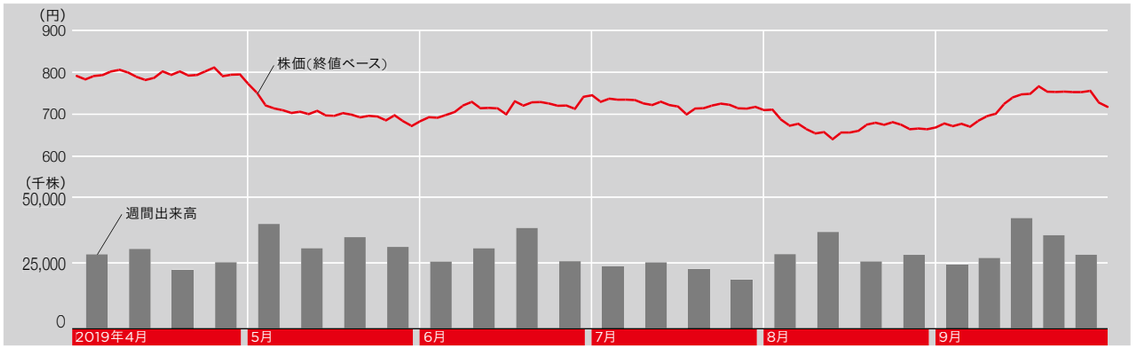
●所有株数別分布状況 (2019年9月30日現在)



●円グラフの数値は四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

直近/高値/安値(東証)
直近(終値) 717.7円 2019年9月30日
高値(ザラ場) 813.8円 2019年4月23日
安値(ザラ場) 640.2円 2019年8月15日

●株価／出来高の推移 (2019年4月1日～2019年9月30日)



会社概要／役員

●会社概要 (2019年9月30日現在)

創業	1858年5月
設立	1949年12月1日
資本金	262,686百万円
従業員の状況	従業員：4,453名 平均年齢：41.8歳 平均勤続年数：17.0 年

●上記人員には、国内出向者641名、海外店勤務者・海外出向者・海外研修生856名が含まれております。また、上記4,453名のほかに、海外現地法人の現地社員1,477名、海外支店・出張所の現地社員が438名おります。

●当社ネットワーク (2019年10月1日現在)

国内：本社	東京都中央区日本橋二丁目7番1号
支社・支店・出張所	北海道支社、東北支社、中部支社、大阪支社、中国支社、九州支社等11カ所
海外：海外支店・出張所	モスクワ支店、イスタンブール支店、ヨハネスブルグ支店、シンガポール支店、クアラルンプール支店等57カ所
現地法人	丸紅米国会社、丸紅欧州会社、丸紅アセアン会社、丸紅中国会社等29の現地法人およびこれらの支店・出張所等39カ所

●海外ネットワーク (66カ国125カ所 / 2019年10月1日現在)

●役員 (2019年9月30日現在)

取締役会長	國分文也
代表取締役社長*	柿木真澄
代表取締役副社長執行役員*	松村之彦、髙原一郎
代表取締役専務執行役員*	矢部延弘
代表取締役常務執行役員*	宮田裕久
取締役	北畑隆生、高橋恭平、福田 進、翁 百合
監査役	郡司和朗、南 晃、吉戒修一 八丁地 隆、米田 壯
専務執行役員	岩佐 薫、寺川 彰、河村 肇
常務執行役員	石附武積、小林武雄、Michael McCarty 相良明彦、小林伸一、堀江 順、及川健一郎
執行役員	岡田英嗣、酒井宗二、古賀久三治、島﨑 豊 冨田 稔、二井英一、熊田秀伸、平澤 順 佐藤 誠、大平裕一、古谷孝之、横田善明 板井二郎、武智康祐、安藤孝夫、寺垣 毅 市ノ川 覚、今村 卓

●＊印の各氏は、代表取締役であり、かつ執行役員を兼務しております。
●取締役北畑隆生、取締役髙橋恭平、取締役福田進および取締役翁百合は、社外取締役であります。
●監査役吉戒修一、監査役八丁地隆および監査役米田壯は、社外監査役であります。
●当社は業務運営の一層の強化を図るため、執行役員制度を導入しております。執行役員は33名で構成されています。

IR ニュースメールを配信しています

決算情報はもちろん、最新のビジネスの動きを伝えるニュースリリースなど、当社の情報をタイムリーにお届けします。
メールアドレスをお持ちの方は、どなたでも無料でご登録いただけます。ぜひご利用ください。

www.marubeni.com/jp/ir/news/mail/

詳しくは当社ウェブサイトをご覧ください。

MERRELL®

MERRELL(メレル)は世界160ヵ国で愛され続けるアメリカ発祥のアウトドアブランドです。創業1981年から常に「新しさ」を追求し続け、本格的なアウトドアから普段のカジュアルスタイルまで、多彩なシューズやアパレルを展開しています。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金支払株主確定日	毎年3月31日
中間配当金支払株主確定日	毎年9月30日
株主名簿管理人および特別口座管理機関	みずほ信託銀行株式会社 〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
同事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店 証券代行部 〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
単元株式数	100株
上場取引所	東京・名古屋
公告方法	電子公告 (なお、当社の電子公告は、当社ウェブサイトの以下のアドレスに掲載します。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。) https://www.marubeni.com/jp/koukoku.html
証券コード	8002
ウェブサイト	www.marubeni.com/jp/

株式事務に関するご案内

● **未払配当金のお支払い**

みずほ信託銀行・みずほ銀行の本店および全国各支店にてお支払いいたします。

※なお、みずほ証券の本店および全国各支店においても、取り次ぎをいたします。

● **配当金の支払明細の発行**

みずほ信託銀行の下記連絡先にお問い合わせください。

● **住所変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受取方法のご指定、確定申告、相続に伴うお手続き等**

【証券会社に口座をお持ちの株主様】

口座を開設されている証券会社にお問い合わせください。

【証券会社に口座をお持ちでない株主様(特別口座に記録されている株主様)】

みずほ信託銀行の下記連絡先にお問い合わせください。

お問い合わせ先

〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

みずほ信託銀行株式会社 証券代行部　0120-288-324

株主レポート まるべに No.127 (年2回発行) 2019年11月29日発行　発行人／小倉泰彦

発行／丸紅株式会社 財務部　〒103-6060 東京都中央区日本橋二丁目7番1号　TEL 03-3282-2418

VEGETABLE OIL INK

環境保全のため、環境に配慮した植物油インキで印刷しています。

将来見通しに関する注意事項:本紙に掲載された予測および将来の見通しに関する記述等は、本紙の発行日現在における入手可能な情報、一定の前提や予期に基づくものです。よって、実際の業績、結果、パフォーマンス等は、経済動向、市場価格の状況、為替の変動等、様々なリスクや不確定要素により大きく異なる結果となる可能性がありますが、当社は、本紙の情報の利用により生じたいかなる損害に関し、一切責任を負うものではありません。また、当社は、本紙に掲載された予測および将来の見通しに関する記述等についてアップデートする義務を負うものではありません。